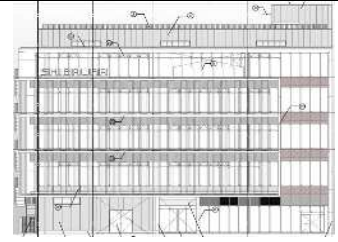


CASBEE[®] さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社芝浦電子 新社屋新	階数	地上6F
建設地	さいたま市東区東区新町西口土地区画整理事業20街区11、12、13画地	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、防火地域	平均居住人員	133 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2024年9月18日
敷地面積	1,393 m ²	作成者	
建築面積	919 m ²	確認日	2024年9月18日
延床面積	4,018 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (46 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 84% (39 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の: 84% (39 kg-CO₂/年・m²)

④上記+: 84% (39 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.8

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	CO ₂ 排出率の減少のために努力しています。	
その他	特になし。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
F☆☆☆☆建築材料を使用することで、室内空気汚染化学物質がない、室内環境の向上を図ります。	維持管理しやすい内装・外装を使用することで、建物の長寿命化を図ります。	特になし。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
一次エネルギー消費基準を達成することで、建物の低炭素化を図ります。	自動水栓と節水便器を使用することで、エコの対策を図ります。	駐車スペースを確保することで、周辺道路の渋滞緩和を図ります。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
(仮称)株式会社芝浦電子 新社屋新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.1
Q1 室内環境							0.40			3.1
1 音環境						3.4	0.15			3.4
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40			
1.2 遮音						4.2	0.40			
1 開口部遮音性能		T-3。				5.0	0.60			
2 界壁遮音性能						3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-			
1.3 吸音						3.0	0.20			
2 温熱環境						3.0	0.35			3.0
2.1 室温制御						3.0	0.50			
1 室温						3.0	0.38			
2 外皮性能						3.0	0.25			
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38			
2.2 湿度制御						3.0	0.20			
2.3 空調方式						3.0	0.30			
3 光・視環境						3.0	0.25			3.0
3.1 屋光利用						3.0	0.30			
1 屋光率						3.0	0.60			
2 方位別開口							-			
3 屋光利用設備						3.0	0.40			
3.2 グレア対策						3.0	0.30			
1 屋光制御						3.0	1.00			
3.3 照度						3.0	0.15			
3.4 照明制御						3.0	0.25			
4 空気質環境						3.5	0.25			3.5
4.1 発生源対策						4.0	0.50			
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建材を使用。				4.0	1.00			
4.2 換気						3.0	0.30			
1 換気量						3.0	0.33			
2 自然換気性能						3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33			
4.3 運用管理						3.0	0.20			
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50			
2 喫煙の制御						3.0	0.50			
Q2 サービス性能							0.30			3.2
1 機能性						3.2	0.40			3.2
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40			
1 広さ・収納性						3.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33			
3 バリアフリー計画						3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性						3.3	0.30			
1 広さ感・景観		天井高2.8m。				4.0	0.33			
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペースに自販機を設置。				5.0	0.33			
3 内装計画						1.0	0.33			
1.3 維持管理						3.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		維持管理しやすい内装・外装材を使用。				4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30			3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						3.6	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数20年以上の仕上げ材を使用。				5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		2種類以上に等級Bを使用、Eは不使用。				5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20			
2.4 信頼性						2.4	0.20			
1 空調・換気設備						1.0	0.20			
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20			
3 電気設備						3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20			
5 通信・情報設備						2.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高4m。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.17。	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPI][BPI _m] = 0.88	4.2	0.20	-	-	4.2
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.77	3.3	0.50	-	-	3.3
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓と節水便器を使用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		仕上げ材の下地に軽量鉄骨を使用。	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		CO2排出率: 84%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車スペースを確保。	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策チェックリストは半分以上達成、広告物照明は不使用。	5.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	